



ネジールちゃんの病状について会見する河崎教授
 ◎と小泉教授 15日午後、金沢市の金沢大医学部
 付属病院

男児
 病難
 ボネ
 ちゃん
 ル

脳への転移認めず

金沢大会見 「泣かず我慢強い」

目の中にがんができる難病・網膜芽細胞腫（もうまくがさいぼうしゅ）治療のためユーゴスラビア・コソボ自治州から来日し、金沢大医学部付属病院で治療を受けているアルバニア系男児、ネジール・シニックちゃん（三）について、同病院小児科の小泉晶一教授と眼科の河崎一夫教授が十五日、記者会見し、脳内転移はしておらず、すでに摘出して義眼となっている右目の奥にも再発の心配がないことを明らかにした。

たあと、今週に入って血液検査やMRI検査（画像診断）を実施。その結果、左目内側に十ミリ×三ミリの精円形の腫瘍が確認できたが、検査では脳内転移はしていないことが分かった。摘出している右目の奥も再発の心配はなかった。しかし、感染症（慢性のちくろう症と中耳炎）があることが判明。古い症状で活動性はないものの、十四日から抗がん剤の投与と、感染症を抑えるための抗生物質を投与している。

う。完全に消える確率は四〇％ぐらい。あごの下などリンパ腺にちよつと腫れもあるようなので今後、よく注意しながら治療を進めていく」と話している。

ネジールちゃんはタマゴ料理やサラダが大好きで、「アリガトウゴザイマス」などの日本語を覚え、診察を受けたあと必ず医師に日本語で礼を言う。河崎教授は「検査などでは泣かず、とても我慢強い。両親からとても礼儀正しく教育されており、感心させられる」と話していた。

両教授によると、ネジールちゃんは七日夜に入院し

小泉教授は「腫瘍は九〇％の確率で小さくなると思

明美ちゃん基金の振込先は東海銀行桜橋支店普通口座369554「産経新聞大阪本社明美ちゃん基金」へ。